

(4) 様式第4号 - 2 (報告書)

原稿サイズはA3、文字はMeiryo UI / 12ポイント以上、余白は10mm以上で記入してください。
各項目の枠の幅は自由に変更していただいて構いません。写真等添付することも可能ですが、必ず用紙の中に納まるようにしてください

【案件名】 教職大学院と教育委員会の連携・協働支援事業

案件概要： Describe the project

宮崎大学では、すでに教職大学院、教育学部、附属学校園、附属教育協働開発センターが一体となって、教員のキャリア形成のために取り組んでおり、2018年度の免許更新講習の選択必修「校内研修の活性化」の内容に「キャリアデザイン」の説明を含めるなどの取り組みをしている。今回の nits カフェを契機として今後、さらに宮崎大学と宮崎県教育委員会との連携事業を継続発展することを目的として本企画を設定した。

当日は宮崎県教育委員会が作成した「宮崎県教職員キャリアデザイン手引書」を活用したグループディスカッションを実施することにした。グループディスカッションでは、現職教員のキャリアステップのためのネットワークづくり構築の方途を検討することをテーマに設定した。グループディスカッションには、「宮崎県教職員キャリアデザイン手引書」の作成者にファシリテーター役に加わってもらうことで、現職教員が手引書を最大限に活用できるようにするための助言することにした。さらに、他業種の民間の方が、アドバイザーとして異なる視点から現職教員に助言することで、協議内容が業界内の内輪話にならないように配慮した。また、教職大学院の院生が、そのディスカッションに記録係として参加することで、今後の自分のキャリアデザイン形成の参考になるようにした。

実行： Execution

2017年12月19日(火)の13時から16時まで、宮崎大学の旧：国際連携センターにおいて宮崎大学教職大学院と宮崎県教育委員会との連携・協働支援事業として「宮崎県の教職員キャリアデザインを考える」研修会を開催した。参加者は、現職の先生方を中心に70名であった。参加者の内訳はグループディスカッションの促進役であるファシリテーター6名、アドバイザーとして他業種の民間の方が6名、教育委員会関係者が6名、現職教員が12名の計30名が5人で6つのグループを構成し、加えて各グループに記録係を1名配置し、1グループ6名とした。教職大学院生や教職大学院教員40名は、会場の後方席からグループディスカッションを見学した。参加者は、教職大学院と教育委員会の双方が、それぞれ幅広く告知して招いた。

グループディスカッションでは、現職教員から、これまでのキャリアの説明に始まり、「宮崎県教職員キャリアデザイン手引書」作成に携わった関係者による活用の説明がなされた。その上で、今回のキーワードである「キャリアデザイン」についての説明を行った。そして、現職教員から、今後のキャリア形成の見通しと不安が示され、その見通しと不安に対して手引書を基にしながら、民間企業出身者を含めたアドバイザーが助言する形で進化した。ディスカッションの記録では、「研究主任はその職を任せられ、どう動かしていったよいか悩む」といった悩みが示されたり、「銀行では、一人一人とのミーティングが設定されている。自己開示する機会にもなっている」といった他業種での話が展開されたことで、普段接することが少ない他業種でのキャリア形成の実態を現職教員が知る事ができた。

ディスカッションでは、テーマである今後のネットワークづくりに至るまでに、「キャリアデザイン」という言葉自体の説明と現職教員のこれまでのキャリアの説明に多くの時間が割かれたが、今後のネットワークづくりについては、校内研修において教職大学院関係者も参加した方がよいのではないかという意見が挙がった。

成果： Results

アンケート結果からは、参加者の9割近くが「宮崎県境職員キャリアデザイン手引書」の理解を深めただけでなく、キャリアデザイン手引書の活用方法を得たとの結果を得た。参加者の感想で「先輩教員のそれぞれの立場の話を聞ける場を求めている。中堅教員も意図的に設定されることで、自分のキャリアの振り返りになり、キャリアデザインを考えるきっかけになる」と示すように、自分のキャリアの悩みや不安を話し合える人たちと出会える機会が存在することは重要であることを参加者が共通に認識できた。